

式 辞

柔らかな日差しを浴びて 木々のつぼみもふくらみを増し、春の訪れを感じるこのよき日に御来賓の方々、保護者の皆様の御臨席をいただきまして、北本高等学校第48回卒業証書授与式を挙行できましたこと、私ども教職員一同にとりまして、この上ない喜びであります。

127名の卒業生の皆さん、御卒業まことにおめでとうございます。保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

さて、皆さんと出会ったのは、この4月です。つい先日のことのように感じます。体育館での始業式、時間前に並んでまっすぐにこちらを見る目が印象的でした。授業や行事で見る姿も、一生懸命でした。それぞれの進路を考え、決定をし、努力を重ねてきた姿も目にしてきました。そして、その4月から変わらない人数の127名の卒業証書を授与できたことを本当に嬉しく思います。50周年記念式典も皆さんのおかげで成功裏に終えることができました。感謝の念と、卒業を祝して、皆さんに、ある小学6年生の作文を紹介したいと思います。

「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは半年くらいやっていたんですが、3年生の時から今までは365日中360日は激しい練習をやっています。だから、一週間で友達と遊べる時間は5、6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。」

作文を書いた人は、イチロー選手です。イチロー選手は、今年1月、日米野球殿堂入りを果たした華麗なプレーと数々の偉大な記録の持ち主です。今でこそ珍

しくない日本人のメジャー挑戦ですが、イチロー選手は日本人野手としては初めての挑戦で、2001年当初には「日本に帰れ」としょっちゅう言われたそうです。ですが、その年に首位打者と盗塁王を獲得し、新人王と MVP に輝いています。守備位置を見て針の穴を通すように内野の間を抜く打撃、「レーザービーム」と称された返球は、世界の人々を感動させました。どうしてそんなことができたのか。私はこの作文に答えがあると思いました。自分の夢に対して少しも迷いが無い、夢に対して本気で取り組んでいる、自らの夢の実現には練習が大事で、友達と遊ぶ時間が少なくても少しの悔いも見せない、51歳になった今も「少しずつの積み重ねでしか、自分を超えていけない、地道に進むしかない」と語っています。小学6年生からイチロー選手は少しもぶれていません。

さて、北本高校の校訓とも言える「夢・挑戦・感動」というフレーズ、卒業生の皆さんも何度も耳にしてきた言葉で、北本高校の生徒が長い間、精神的支柱としてきたものです。北本高校がぶれずに生徒たちに伝えてきた言葉とも言えます。その「夢・挑戦・感動」を今一度かみしめてほしいと思います。どんな夢でもいい。本気で挑戦し、まっすぐに夢を信じて、時には重荷を背負い、困難に立ち向かう、夢を実現すべく努力を重ね、感動あふれる豊かな人生を送っていただきたいと思います。

結びになりますが、保護者の皆様にお祝いとお礼を申し上げます。御家族の皆さんの慈しみに包まれて、生徒達は立派に成長しました。保護者の皆様の、お喜びもひとしおと存じます。そして、3年間の御協力に、教職員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

イチロー選手の作文には、もう一つ夢が書いてありました。お世話になった人へ恩返しをしたいということです。ぜひ、卒業生の皆さんも、お世話になった人への恩返しという夢を持つこと、それも素敵な夢だと思います。

それでは、卒業生の皆さんの輝かしい未来を祝して、式辞といたします。

令和7年3月12日

埼玉県立北本高等学校長 本城 千晶